

介助犬トレーナーをめざして

～新事業・キミチャレ2012～

「キミチャレ」は、子どもたちが夏休みにやりたいことを「自ら考え」「自ら動き」「自分の決めた目標に向かってチャレンジする」新たな取り組みです。方法を考えるのも行き先を見つけてお願いするのも子どもが自分で行います。

はじめての事業であるにもかかわらず、201人の子どもの申し込みがありました。今年、チャレンジしたのはその中から50組で、「パティシエになりたいから、大好きなケーキ屋さんに教えてもらいたい」「跳び箱で10段とべるようになりたい」「東日本大震災被災地でボランティアしたい」など、子どもたちは思いを実現するため、たくさんの壁を越えるチャレンジに取り組みました。



今回紹介するのは、幡山中学校1年生の鈴木花菜さんと矢野健太さんです。2人とも介助犬トレーナーをめざして、職場体験を行いました。

2人が訪問した先は「介助犬総合訓練センター～シンシアの丘～(長久手市)」です。介助犬を育てている施設は全国的にもめずらしく、まだまだ少ないのが現状です。昨年はシンシアの丘から6頭が介助犬となり、障がい者の方と一緒に暮らしています。

鈴木さんは、自分のお家で柴犬を飼っており、犬が大好きな女の子です。矢野さんは、図書館で介助犬の本を読み、インターネットなどで介助犬について調べてきた研究熱心な男の子です。

1 ホールのふき掃除

はじめはホールのふき掃除です。シンシアの丘では、どこからお客さんが来ても「きれいですね。」「お家みたいです。」と言われてるように、スタッフやボランティアさんが毎日掃除をしています。2人もボランティアさんから教えてもらいながら、ふき掃除を真剣に行っていました。



2 訓練犬のお世話

次は訓練犬のお世話です。介助犬は障がい者の方と一緒にホテルやスーパーなどを出入りするため、清潔であることが大切です。訓練部の橋本さんに教えてもらいながら、犬にブラッシングをしたり、濡れたタオルでふいてあげました。

最初は恐る恐るお世話をしていた矢野さんが、最後にはとても慣れた手つきになっていたのが印象的でした。鈴木さんは「お家の犬は耳を触ると怒るので、耳掃除ははじめてだった。」と言いながらも果敢に挑戦していました。

3 介助犬のトレーニング

いよいよトレーニングです。今回はお店などに出かけた際、介助犬が敷いたマットにふせられるようになるためのトレーニングです。

橋本さんは、「マット」と言いながら、根気強く練習を重ねていました。「この子が何を考えているのかを見極めるのがトレーナーの大切な仕事。犬には楽しくトレーニングをしてもらう。できなかったからといって、しかったり、たたいたりしてはいけません。嫌々やるようになってはだめで、褒められるからやってみようと思ってもらうことが大切。そうすることで、介助犬も障がい者の方も楽しんで暮らせるようになる。」と話しながら、「お利口グッド」と犬の頭をやさしく撫でていました。



4 介助犬のお仕事

介助犬は全国でまだ62頭しかいません。

鈴木さんと矢野さんは、「落としたものを拾ってもらおう」介助犬のお仕事を体験しました。この他、介助犬は、靴や靴下など衣服を脱がせたり、冷蔵庫の中の飲み物を取って来たり、携帯電話も探して持って来ます。



とにかく褒めることが大切なことがわかった。

事務室から犬舎が見えることがわかり、犬の健康が一番だと気づいた。



ほじょ犬マーク

5 最後のミーティング

今日1日、お世話役をしてくれたスタッフの柴原さんと最後のミーティングです。鈴木さんは「ボランティアさんの掃除とか普通に来ればやれるの?」と質問し、今後もボランティアとして関わっていく意欲を見せていました。

柴原さんは2人に「店の前などに“welcome! ほじょ犬”ステッカーが貼ってあると、障がい者の方が安心して介助犬と一緒に入れる。2人はどんどんPRして!」と話してくれました。これから、2人は介助犬トレーナーをめざして、家族や友達、地域の方などに介助犬のお仕事などを広めていきます。

まるっとせとっ子フェスタでキミチャレを発表!

日時 11/11(日)午後1時～
場所 文化センター 文化ホール

子どもたちがチャレンジしてきたことを皆さんの前で発表します。ぜひお越しください。

